

郷土を愛し、未来を拓く子どもたちの育成

～ふるさと五條とのつながりを深める教育活動の推進～

五條市教育委員会

1. はじめに

五條市では、現在、令和8年度から5年間を対象とする「第2期五條市教育大綱」および「第5期五條市教育振興基本計画（五條市『夢・志』教育アクションプラン）」の策定を進めている。これまでの第4期計画の成果を継承しつつ、急激な人口減少やICTの進展といった社会情勢の変化に対応した新たな指針のもと、教育活動を推進している。

中学校区ごとに一つの学園として施設分離型の小中一貫教育を推進するとともに、市内認定こども園・小学校・中学校・市立西吉野農業高等学校、さらには地域連携協定を締結した県立五條高等学校が緊密に連携し、地域全体で子どもたちの成長を支える体制を構築している。

世界遺産学習においては、本市大塔町を通る世界遺産「大峯奥駈道」を精神的な原点とし、市内の豊かな歴史、文化、自然、産業を多角的に学ぶ「ふるさと学習」を展開している。これは新計画案においても、郷土への自信と誇りをもつ「人づくり」の基盤として重要視されている。

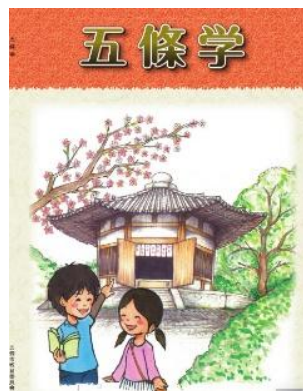
2. 教育目標

第5期五條市教育振興基本計画では、目指す教育の姿として「家庭・地域社会に求める姿」「教育・保育に求める姿」を明確に示している。家庭・地域においては、多様な学習機会を通じて「この町に住んで良かった」と言える魅力あるまちづくりを目指し、学校・こども園においては、子どもたちが「夢・志」をもち、将来にわたって五條とのつながりを感じながら生きる力を育むことを目標としている。

特に、地域資源を活用した学びを通じて、子どもたちのシビックプライド（郷土愛）を醸成し、持続可能な社会の担い手（ESD）としての資質を養うことを教育の柱としている。

3. 教育委員会・学校での取組

○郷土教材「五條学」の深化とデジタル活用



五條学冊子

市の歴史、文化財、自然、産業などを網羅した副読本「五條学」について、昨年度より導入しているデジタルブック版を授業の中で日常的に活用している。一人一台端末を用いて、児童生徒が自らの興味関心に合わせて必要な情報を即座に引き出し、調べ学習や発表活動に役立てるなど、デジタルならではの利便性を活かした「ふるさと学習」を深化させている。また、市ホームページでの一般公開により、家庭や地域住民とも学びを共有できる環境を維持しており、「ICT機器を用いた教育の深化」を実践している。



五條学デジタル

<https://www.unixpress.com/Poste/goiougaku/>

○五條市合併 20 周年記念 第 6 回「五條市小学生ふるさとかるた大会」の実施

令和 8 年 2 月 7 日（土）、五條市合併 20 周年の節目を記念する大会として「第 6 回五條市小学生ふるさとかるた大会」を五條市役所にて開催した。「五條かるた」を通じた郷土理解と、市内他校の児童との交流を目的に、低・中・高学年の部に分かれて熱戦が繰り広げられた。参加した子どもたちは、一枚の札に集中して真剣に競技に取り組んでおり、遊びを通じて地域の魅力を再発見するとともに、世代を超えて受け継がれる郷土愛を育む貴重な機会となった。



かるた大会の様子

○五條東部学園コミュニティフェスティバル 2025（コミュフェス！）の展開

地域・家庭・学校が一つになって開催する学園行事を、令和 7 年 11 月 20 日（木）に実施した。小学 3～6 年生および中学 1 年生が企画・運営の段階から主体的に参画し、「未来へ TSUNAGARU 東小カルタ」や「柿博士になろう」など、地域資源を題材としたブースを運営した。この取組は、新大綱が掲げる「地域コミュニティの活性化」を推進するものであり、多様な世代との交流を通じて子どもたちの非認知能力（基礎的・汎用的能力）を育むとともに、地域全体で五條の価値を再認識する場となった。



オープニング



むかしあそび



東小かるた

4. おわりに

本市における世界遺産学習および「ふるさと学習」は、単なる知識の習得に留まらず、子どもたちが地域社会の一員としての自覚を持ち、自らの生き方を展望するための重要な礎となっている。世界遺産「大峯奥駈道」が象徴する悠久の歴史と豊かな文化を精神的な軸とし、変化の激しい現代社会においても、柔軟かつ主体的に行動できる「人づくり」を今後も加速させていく。

新たに策定する「第 2 期五條市教育大綱」および「第 5 期五條市教育振興基本計画」のもと、学校・家庭・地域の絆をさらに深め、子どもたちが五條の地に「夢と志」を描き、将来どこにいても心の拠り所として「ふるさと」を誇りに思えるような教育活動を、市を挙げて推進していく。